

道路24 国道196号の一次改築(愛媛県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
愛媛17	愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史地誌Ⅱ(東予東部)」(愛媛県、1988年)、111頁	<p>国道一九六号における日本道路公団の有料道路 (中略)この間今治市桜井大字孫兵衛作一東予市壬生川の六〇五八mは、日本道路公団によって三五年に有料道路として整備され(事業費二億九七〇〇万円)、同公団によって管理されていた。これは四国で初めての有料道路であり、この路線の開通によって予讃本線との平面交叉が除かれて距離で約一km、時間的には約二〇分の短縮となり、地方の交通・経済の発展に重要な役割を果たした。その結果、四九年にはこの区間建設費の償還を終わり、松山工事事務所の直轄で管理することになった。</p>
愛媛34	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、688-689頁	<p>東伊予道路 (中略) 当時の国道一九六号線孫兵衛作一壬生川間(現県道)は、幅員が狭くカーブの多い道路でしかも、国鉄予讃線との交差踏切が三か所もあるため、日本道路公団によって東伊予道路の新設が計画された。工事は昭和三十三年十一月に着工され総事業費二億九七〇〇万円をかけて同三十五年十月六日に開通した。これは四国最初の長距離有料道路であった。(中略) 東伊予道路の開通にともなって市内の道路の改良・舗装が相次いで行われ、道路交通網が飛躍的に整備された。</p>